

第5学年 国語科学習指導案

児童 5年1組 男13名 女17名
指導者 嵯峨 文裕

単元名

物語の「おもしろさ」をとらえ、ブックトークをしよう。

学習材名「注文の多い料理店」（東京書籍5年）P111～P131

<主となる指導事項>

◎登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる力
(C 読むことエ)

<付けたい力>

○物語の構成や表現の工夫に着目して読み、自分の考えをまとめる力。

<単元の言語活動>

◎物語の「面白さ」を読み取り、それを伝えるブックトークをする。

1 単元について

(1) 子どもの実態

子どもたちは、「読むこと」領域の文学的文章を読む学習において、「ごんぎつね」（東京書籍4年下）では、中心となる人物の気持ちの変化が、他の人物の行動や気持ちと大きく関わっているということを学んでいる。また、「世界でいちばんやかましい音」（東京書籍5年）では、物語の基本的な構成として、「始まりの場面」「山場に向かう場面」「山場」「終わりの場面」について学習し、山場で起きた変化について考えて読む力を身に付けてきた。しかし、作品の中の優れた叙述や表現の工夫のよさに気づき、自分の考えをもつには至っていない。研究主題に関わっては、これまでも相手意識を重視した言語活動を位置付けてきたが、学習過程や発問の吟味が足りず、子どもに「伝える必要感」をもたせることができなかつたため、自分の思いや考えを「主体的に表現」する力が十分に育っているとは言えない。さらに、5月末に実施した国語科に関する意識調査の結果を見ると、説明的文章に比べて文学的文章に苦手意識をもつ子どもは少ないものの、「登場人物の気持ちや場面の様子を想像すること」は28%、「読んだ本や文章に対して、感想や自分の考えをもつこと」には、35%の子どもが苦手意識をもっている。

以上のことから、本単元では、「物語の面白さを読み取り、ブックトークをする」という言語活動を位置付け、物語の構成にどのような工夫や仕掛けがあるのか、文章表現や言葉の使い方によどのような工夫があるのかを捉え、自分の考えをもつ力を身に付けさせたいと考える。

(2) 学習材について

本学習材「注文の多い料理店」は、「現実の世界」、「不思議な世界」、「現実の世界」を行き来するファンタジーの構造をもつ物語である。また、題名や料理店の「戸」の言葉に二つの意味が隠され、それが物語全体の大きな仕掛けとなっている。色彩を使った表現や擬声語・擬態語なども用いられ、物

語の世界に読み手を引き込む工夫が多い。子どもが楽しんで読み進めることのできる物語であり、物語のよさや面白さを生み出す工夫を探しやすい学習材である。会話文から人物の性格や心情の変化をつかみやすく、おごった人間が自然に仕返しされるという展開が理解しやすいのも特徴と言える。

読解に当たっては、「現実の世界」と「不思議な世界」を行き来する構成を押さえ、どこから「不思議な世界」に入り、どこで「現実の世界」に戻ったのかを考えさせたい。また、ファンタジー独特の表現や、宮沢賢治の作品に多く見られる色彩表現や擬声語・擬態語などの表現の工夫に気付かせながら、想像力を広げさせたい。

(3) 言語活動の特徴と指導事項との関連

本単元では、最重点指導事項「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」(C(1)エ)において、「優れた叙述について自分の考えをまとめる力」を身に付けさせるために、物語の「面白さ」と自分の思いや考えを表現しやすい「ブックトーク」を単元の言語活動に設定する。第二次で読み取った物語の構成や表現の工夫についての解説をまとめ、それをもとに第三次でブックトークをする。ブックトークで伝える内容としては、物語の構成や表現の工夫を「面白さ」として解説する部分、読み取った「面白さ」に対する自分の思いや考えを伝える部分の二つで構成する。

子どもたちが目的意識や相手意識をもつことができるように、第三次では図書委員会主催の「図書祭り」において、5年生の「宮沢賢治作品の紹介コーナー」を設けることを単元のゴールとして位置付け、学習に対する意欲と有用感をもつことができるようにしたい。

(4) 指導に当たって

単元の学習に入る前に、本校の読み聞かせボランティア「あっぷっぷ」の方に、宮沢賢治の物語をブックトークで紹介していただく。本単元の学習で、物語の場面構成や表現の工夫を「面白さ」として捉えていくことの動機付けと、「ブックトーク」のよさに気付かせ、学習に対する意欲や必要感をもたせたい。また、並行読書として学級文庫に宮沢賢治の作品を充実させておく。

第一次では、題名や挿絵から物語の内容を想像し、「注文の多い料理店」について意見を出し合う。「物語の面白さを読み取り、図書祭りでブックトークをする」という学習課題とゴールを確かめ、子どもたちが目的意識や相手意識をもって主体的に学習を進められるようにしたい。また、時、場所、人物の設定と大まかな内容を確認、初発の感想を交流させる。

第二次では、物語の「面白さ」を読み取り、ブックトークで紹介するために学習材を読んでいく。物語の「面白さ」を解説するために、構成や仕掛けなどの物語の特徴を押さえることと、表現の工夫を探し、自分の考えとともに書きまとめることの二つの読みを軸にして学習を進めたい。物語の特徴を押さえるために、「不思議な世界」の入り口と出口やそのきっかけとなっている表現を見つけたり、初めの「現実の世界」と最後の「現実の世界」での紳士たちの様子を読み比べ、変化したところや変化しなかったところを考えたりすることを読みの視点としたい。ここでは、「現実の世界」→「不思議な世界」→「現実の世界」という構成や二人の紳士の変化にも作品の面白さがあることも押さえたい。表現の工夫を探し、自分の考えをまとめるためには、二通りの意味をもつ言葉や表現、比喻や反復、擬声語・擬態語、色彩表現などの工夫に気付くことが大切である。見つけた表現の工夫がどのような

効果をもたらしているのかを問い、子どもが自分の考えをもつことができるようにしたい。自分が最も面白いと思った点や他の人にぜひ気を付けて読んでほしい部分について観点を絞ってまとめさせ、自分が気付いた「面白さ」が相手に伝わるように具体的に解説することを意識させたい。

第三次では、図書委員会主催の「図書祭り」において「宮沢賢治作品の紹介コーナー」を設け、学習材や並行読書で読んだ他の宮沢賢治の物語の「面白さ」をブックトークで紹介する。自分たちの活動が、図書室を利用する人たちの選書の参考になること、読書の楽しさに気付くきっかけになり得ることを話し、意欲と学習の有用感を高められるようにしたい。

2 単元の指導目標と評価規準

○物語の構成や表現の工夫について解説することに意欲をもち、目的をもって読もうとする。

【関心・意欲・態度】

◎物語の構成を捉え、物語の面白さを生み出す優れた表現を見つけて、自分の考えをまとめることができる。

【読むこと（1）エ】

○読み取った面白さを伝え合い、感想を交流することで自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

【読むこと（1）オ】

○物語の構成の工夫や、比喻や反復などの表現の工夫に気付くことができる。【伝国（1）イ（ケ）】

[評価規準]

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○物語の構成や表現の工夫について解説することに意欲をもち、目的をもって読もうとしている。	◎物語の構成と、比喻・反復・色彩表現・擬声語・擬態語などの表現の工夫を「面白さ」として捉え、それに対する自分の考えをまとめている。 【読むこと（1）エ】 ○読み取った「面白さ」と自分の考えを伝え合い、感想を交流することで自分の考えを広げたり深めたりしている。 【読むこと（1）オ】	○物語の構成の工夫や、比喻・反復・色彩表現・擬声語・擬態語などの表現の工夫に気付いている。

3 単元の指導計画（全12時間）

次	時	主な学習活動	指導の手立て	評価とその方法
一	1	<p>○物語の内容を想像する。</p> <p>○付けたい力と単元のゴールを確認し、学習の計画を立てる。</p> <p>○物語の設定と大まかな内容を確認する。</p> <p>○全文を通読し、初発の感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 P111 の題名や絵から物語の内容を想像し、「注文の多い料理店」について意見を出し合う。 物語の構成や表現の工夫をとらえ、ブックトークをすることを確かめる。 「時」「場」「人」「出来事」を確かめる。 面白いと思ったところ、不思議に思ったところを感想の観点にする。 	<p>関物語の構成や表現の工夫について解説することに意欲をもち、目的をもって読もうとしている。</p> <p>(行動観察・発言)</p>
二	2	<p>○「不思議な世界」の入り口と出口を確かめ、物語の構成をとらえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「不思議な世界」の入り口や出口がどこなのかを考えさせ、その理由やきっかけになる言葉や表現について交流させる。(ペア) 現実の世界と不思議な世界の関連を押さえ、出来事をより詳しく読んでいくために、場面分けをしておく。 	<p>読物語の中の「現実の世界」と「不思議な世界」の変わり目に気付き、物語の構成を捉えている。</p> <p>(ワークシート・発言)</p>
	3	<p>○物語の叙述を手掛かりに、二人の紳士の人物像を読み取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 紳士たちの様子や性格が分かる言葉を探し、サイドラインを引かせる。 探した言葉を根拠にし、紳士たちがどんな人物かを考えさせる。 P130の「てびき」を参考にし、表現の工夫を「面白さ」として捉えられるようにする。 <p>(おもしろポイント)</p>	<p>読文章中の言葉を手掛かりに、紳士たちの人物像を読み取り、自分の考えをもっている。</p> <p>(ワークシート・発言)</p>

並
行
読
書

4	○戸の言葉の本当の意味と、紳士たちの解釈の違いを捉える。	<ul style="list-style-type: none"> ・戸に書かれていた言葉に対する紳士たちの考えや気持ち、言葉の本当の意味を考えて書かせる。 ・戸の言葉の本当の意味と紳士たちの考えとのずれが、面白さにつながっていることに気付かせる。(おもしろポイント) ・「どうか」と「どうぞ」の違いなど、ずれを探すための手掛かりになる言葉を大事に扱う。 	<p>読 紳士たちの考えや気持ち、戸の言葉の本当の意味について、叙述を基に読み取り、自分の考えをもっている。</p> <p>(ワークシート・発言)</p>
5	○戸の言葉や紳士たちの様子や会話文に着目して読み、二人の気持ちの変化を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで戸の言葉を勝手な解釈でとらえていた紳士たちが、どこで本当の意味に気付くのかを考えることを読みの視点にする。 ・「注文が多くて…お気の毒」の表現に着目させ、「注文」は誰が誰に出しているものなのかに気付かせ、題名の意味につなげる。(おもしろポイント) 	<p>読 紳士たちの考えや気持ちについて、本文の叙述を基に考えながら読み、二人の気持ちの変化を読み取り、自分の考えをもっている。</p> <p>(ワークシート・発言)</p>
6 (本時)	○始めと終わりの「現実の場面」を比べ、紳士たちの様子で変化したところとしなかったところを読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・始めの場面と比べながら終わりの場面の紳士たちの様子を読み取り、変わらなかったところと変わったところを読み取らせる。 ・くしゃくしゃになった顔は元に戻らなかったことを押さえ、紳士たちはどう捉えたか、自分たちはどう考えるかを書かせる。 ・登場人物の変化も物語の仕掛けとして捉えさせる。(おもしろポイント) 	<p>読 物語全体を通した紳士たちの変化を読み取り、自分の考えをもっている。</p> <p>(ワークシート・発言)</p>

並
行
読
書

7	<p>○これまでの読み取りを振り返り、構成や表現の工夫などの「面白さ」を確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の構成と、二つの意味をもたらせた題名や戸の言葉など、物語のしかけについて、確かめる。 ・擬声語・擬態語などの表現、色彩表現、比喻、反復などの工夫を確かめ、どの部分を特に解説したいかを考えさせる。 	<p>読物語の構成と、比喻・反復・色彩表現・擬声語・擬態語などの表現の工夫を「面白さ」としてとらえ、それに対する自分の考えをまとめている。 (ワークシート・発言)</p>
8・9	<p>○「注文の多い料理店」の「面白さ」をブックトークで紹介するために解説メモを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本を紹介する相手に、物語のどこに着目して読んでほしいか、そこにはどのような面白さがあるかが伝わるように書くことを意識させる。 ・解説メモをペアで読み合い、読みに分かりやすくなるように推敲させる。 ・完成した解説メモは、ひとまとめにして綴じておき、単元の学習後も自由に読み合って感想を伝え合えるようにしておく。 ・「この学習で身に付いた力」を振り返る。 	<p>書目的に応じて、小見出しを付けたり、例を挙げたりしながら、解説メモを書いている。 (ワークシート・ノート)</p> <p>言物語の構成の工夫や、比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。 (発言・ノート)</p>
三 10	<p>○物語の面白さを伝える解説メモを読み合い、感想の交流を通して、自分の考えを広げたり深めたりする。</p> <p>○ブックトークを見据え、解説メモのどの部分を特に伝えるかを検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「面白さ」として取り上げたところやその理由、それに対する考えを交流させ、新たに気付いたこと、さらに深く考えたことなどを発表させる。 ・ペアや小グループで、ブックトークの材料になる部分を助言し合えるような交流を設定する。 	<p>読物語の面白さを解説メモに書いて伝え合い、感想を交流することで自分の考えを広げたり深めたりしている。 (発言・ワークシート)</p>

並
行
読
書

11 ・ 12	<p>○並行読書で選んだ宮沢賢治の物語の面白さをブックトークで紹介するために解説メモを書く。</p> <p>○ブックトークを見据え、解説メモのどの部分を特に伝えるかを検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「注文の多い料理店」で学んだ構成の工夫や表現の工夫に着目して、解説することを確かめる。 ・解説メモをペアで読み合い、読み手に分かりやすくなるように推敲させる。 ・ペアや小グループで、ブックトークの材料になる部分を助言し合えるような交流を設定する。 	<p>書 目的に応じて、小見出しを付けたり、例を挙げたりしながら、解説メモを書いている。 (ワークシート・ノート)</p> <p>読 物語の面白さを解説メモに書いて伝え合い、感想を交流することで自分の考えを広げたり深めたりしている。 (発言・ワークシート)</p>
---------------	--	--	--

並
行
読
書

4 本時の指導 (6/12)

(1) ねらい

物語全体を通した紳士たちの変化を読み取り、自分の考えをもつことができる。

(2) 展開

	学習活動・学習内容	指導の手立てと評価
導入 3分	<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px 0;">二人の紳士は変わったのか。</div> <p>2 課題解決の見通しをもつ。</p>	<p>○前時までの学習をふり返り、紳士たちが戸の言葉の本当の意味に気付いたことを押さえて、本時の学習課題につなげる。</p> <p>○再び「現実の世界」に戻ってきた場面を読み、紳士たちの様子を読み取ることが課題解決に有効であることに気付かせる。</p>
展開 35分	<p>3 学習課題を解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紳士たちの変容を考える。 ①一人読み（黙読・サイドライン） ②小グループ ③全体 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><変わらなかったところ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・二人の横柄な態度 ・生き物の命を軽視しているところ ・見栄っ張り <p><始めの場面とちがうところ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙くずのような顔が元に戻らないこと </div> <p>・紳士たちの変容も物語の「おもしろポイント」であることを押さえる。</p>	<p>○第6場面の紳士たちの様子を読み、変わったところと変わらなかったところを見つけさせる。</p> <p>○「二人の紳士は変わったのか。」と問い、叙述に基づいて考えを説明させるように促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><評価規準></p> <p>A 物語全体を通した紳士たちの変化を読み取り、物語の主題にふれながら、自分の考えをもっている。</p> <p>B 物語全体を通した紳士たちの変化を読み取り、自分の考えをもっている。</p> <p>Bに到達させるための手立て</p> <p>これまでのワークシートや学習掲示で既習場面の紳士たちについての叙述を確かめながら、紳士たちの様子や考え方は同じかどうかを問いかける。</p> </div> <p>○「紙くずのような顔」が元に戻らなかったことについてどう思うかを問う。</p>

ま と め 7 分	<p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題に対してのまとめをする。 ・振り返りをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><振り返りの観点></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎解説したいおもしろポイント ◎今日の学習で分かったこと ◎交流について </div> <p>5 次時の学習内容を確認する。</p> <p>7 次時は、これまで学習してきた表現の工夫を確かめる学習をするという見通しをもつ。</p>	<p>○本時の学習を振り返り,自己評価をして自分のがんばりや学習の成果を実感し,成就感をもつことができるようにする。</p> <p>○学習計画表に振り返りを書かせるようにする。</p> <p>○観点に関わる振り返りをしている子どもを意図的に指名し, 価値付けを図る。</p>
-----------------------------------	---	---

5 板書計画

☆始めと終わりの場面が対比している。(物語のしかけ)

☆同じ表現のくり返し(山鳥を買って…)

☆たとえを使った表現(紙くずのような…)

【おもしろポイント】

- ◎中身は変わっていない。助けられても偉そうにしている。
- ◎顔だけが変わった。自然からの仕返しではないか。
- ◎自分たちのおろかさに気付かない。

<p>○自分勝手な態度</p> <p>○えらそうにするところ</p> <p>○動物の命を軽く見ている</p>	<p>○紙くずのような顔</p>
<p>始めの場面と同じところ</p>	<p>始めの場面とちがうところ</p>

⑧ 二人の紳士は変わったのか。

「注文の多い料理店」

宮沢 賢治

<p>料理店を見つける前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イギリスの兵隊の… ・何でもかまわないから… ・二千四百円の損害だ。 ・山鳥を十円も… 	<p>料理店を出た後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おうい、…早く来い。」 ・十円だけ山鳥を買って…
<p>○動物の命を軽く見ている。</p> <p>○見栄っ張り</p> <p>○見栄っ張り</p> <p>○懲りていない</p>	<p>○えらそう</p> <p>○えらそう</p>

物語のおもしろさをとらえ、ブックトークをしよう。